

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
 和歌山第一生命ビル4階
 TEL073(431)1411
 FAX073(433)0650
 wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026

【広告問い合わせ】 073(423)9291
 【購読問い合わせ】 0120-468012

紀の川の守り神となっている地蔵尊(和歌山市布施屋の川辺橋付近)



熊野古道

みちくさ記

29

和歌山市内の紀州街を南下し、紀の川を力待神社に立ち寄り、渡る前に川辺王子跡・岩戸をお開きになった

た。田園地帯の長い参道を進むと、神官の黒柳清さんに迎えられ「主祭神は天手力男命で、天照大神が天の岩戸にお隠れになったとき、無双の神力で岩戸をお開きになった」とのこと。御神です」とのこと。創立は平安中期だが、江戸初期に八王子神社(川辺王子社)と共に現在地に移り、上野、島、神波、楠本、川辺地区の産土神として鎮座している。黒柳さんは「国道24号のバイパス工事で川辺遺跡が発掘され、縄文時代から鎌倉時代までの住居、墳墓、道路、建物、木棺などの遺跡が見つかったんですよ」と説明

現在のような堤がないので増水の度に川幅が広がり、お客も船頭も危険いっぱいだった。そんな渡し場風景を見守ってくれたのが、お地蔵さんである。橋から500mほど下がった河原に、隠れるようにして、六道界を思わせるお地蔵さんと真新しい赤いエプロンをつけた道祖神計7体が鎮座している。今や紀の川の守り神だ。熊野詣技術を磨き、紀の川上

リターふれあいホールで観劇した。灌漑と新田開発で米の生産量を三川の改修などで米を田開発で米の生産量を三川の改修などで米を一挙に増やして藩の財増産。享保飢饉に対処政を安定させ、享保の度大きな拍手を送った。劇中に観衆は二度大きな拍手を送った。一つは有田川の治水工事で犠牲になった父への報いを娘・椿に約束した場面。もう一つは紀の川の治水工事にあたって危険を冒してでも完遂したいと役人を通して藩主吉宗へ

「守り神」7体鎮座

してくださった。近くに紀の川があつて農耕、居住に適していたと思われ。目を河南の高積山方向に転ずると昔、渡し場と布施屋(無料宿泊)で繁昌した場所に川辺橋がかすかに見えた。

24号を横切ると間もなく、紀の川をまたぐ県下最長の川辺橋である。熊野御幸の時代、

での旅人が無事にこの川に帰ってきてほしいという、渡しの人々の祈りが伝わってくる。河原から堤に上がる時、江戸時代に洪水と治水を一挙に解決した、海南市出身の井沢弥惣兵衛(為永)の尽力が思い出された。

劇団KCMのミュージカル「いざわやそべえ」を海南市民交流センター

流の堤防強化と農地開拓で手腕を発揮した大畑才蔵と運命的出会いをする。藩主吉宗に米の増産、財政改善を依頼された為永は、才蔵とともに、藤先井用水や亀の川用水の水路工事を完成させ、期待に応えた。

この実績を買われて將軍吉宗の時代には、幕府の吟味役に昇進。

で、私も感動した。脚本・演出の東道さんに尋ねると「今の幸せの影に、地元の人々のために尽くした過去の偉人がいたことを紹介しただけです。市民は弥惣兵衛のことを忘れず、誇りに思っていてほしい」と言葉を結ばれた。

彼岸花エプロン燃ゆるお地蔵さん 秦華

(次回は28日掲載予定)

紀の川を渡る(和歌山市)

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華